

副島

日本肩関節学会の会長をさせてもらっています。来年、佐賀で学会を開催します。前回の学会に参加したのですが、これは大変ですよ。もう今から、やれるのかなって不安です(笑)。

樋渡

スタッフが明るくて優秀で、とても良い組織ですね。

樋渡

副島病院はずっとこれまで地域に寄り添ってこられました。改めて、地域貢献への想いを語ってください。

副島

私たちは急性期疾患を中心としているので、リハビリ・施設を地域の病院にお願いしております。地域の病院・施設との連携がないと私たちは仕事ができないのです。私たちは地域に支えて頂いて120周年迎えることができました。

受け継がれる整形外科医のセンス

樋渡

副島病院としてのこれからの抱負をお願いします。

副島

今の患者さんだけでなく、そのお子さん、お孫さんもちやんと支えられる病院ですね。やはり医療ですから、東京でも武雄でも同じサービスが受けられること。東京では治つたのに武雄では治らないというのは当然ダメ。心強いですね。

副島

あとは個人的なことですが、息子が5代目としてしっかりと引き継いでくれること。今のところ、本人は本気ですが。

樋渡

子どもはお父さんの背中を見ているからですね。

副島

そうですね。頭が良い人はたくさんいますが、整形外科は決まっていることがないから、センスがないとダメ。その整形外科医のセンスはDNAの中で伝わっているのではないかと私は密かに考えています。

樋渡

酒井田柿右衛門さんも同じようなことをおっしゃっています。血脈です。整形外科に関していうとアカデミックなところ

樋渡

治すのが当然ということですか。

副島

そうですね。それ以上でも、それ以下でもないのです。ただ、120年の間には我々の力不足で、うまく行かなかったケースもありますし、とても感謝されたケースもあります。これらはすべてを糧として常に正しく全力でやっています。120周年を迎えて、さらに新しい展開を考えていきたいです。それが更なる武雄の地域貢献につながると思います。

樋渡
副島

も当然必要ですが、職人さんとアーティストを混ぜた感じなのでしょね。先生にとって医療とは何ですか。人間が生きていく上での体を治す事は当然の作業であり役割ですね。他に何もありません。

